

折に触れ 四字熟語

NO. 229 『眼光紙背』 がんこう しはい

< 意味 > 書物などの読解力が深く鋭いことのとえ。書物や文字の表面だけでなく、深い内容・意味まで深く洞察力を働かせて読むたとえ。目の鋭い光が文字の書かれている紙の裏まで貫く意から。一般には「眼光紙背に徹す」という慣用句で用いられる。

用 例 : それは知性の外面的光彩のまばゆきまでなるに眩惑せられた結果である。畢竟ずるに、眼光紙背に徹せぬからだ。< 鈴木大拙・東洋的な見方 >

語 釈 : 「眼光」は目の光。転じて物事を見通す力。

一 言 : 半藤一利の「昭和史 戦後編」を読んでいて、こんな四字熟語あったかなと思い辞書を調べたらちゃんと載っていました。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」